



【2019年度スローガン】

止まらぬ運動 変わらぬ想い 道は目の前におる
～未来へつなぐ架け橋となれ～

1月号
AKITA
JC

NEWS



2019年度 AKITA JCNEWS



◆所信

2019年度理事長／林 徳彦

はじめに

現在のあきたは日本中で問題となっている少子高齢化とそれに伴う人口減少問題の最前線に立っております。2017年に100万人を割り込んだ秋田県の人口は、2040年には70万人になってしまうと予想されています。また、日本国全体の人口も2050年には1億人を割り込むと予想されています。世界でも類を見ない人口減少社会では、我々が想像し得ない困難な未来が待ち受けているかもしれません。

しかし、いつの時代も様々な困難があったと思います。先人たちはその困難から逃げることなく、課題に向き合い、考え、行動し続けた結果として我々が生きる現在があるのです。先人たちが可能にしてきたことは、私たちにも必ずできます。課題を解決する特効薬などない中で、できることを見出し、時代を牽引していけるのは志高き青年会議所です。

そして、私たちが住み暮らすあきたをよりよくするためには、豊かな自然環境やその恩恵である食べ物、自然とともにある街並み、多様な文化と地域性、それらに育まれた人財といった多くの魅力的な財産の歴史や価値を知り、学び、発展させていかなければなりません。それが明るい豊かな社会を実現し、未来を切り開くことを目指す、我々秋田青年会議所の使命です。

未来を生きる世代に対して責任を負う世代として、我々一人ひとりが真剣に考え、共に議論し、今日よりも良い明日を目指し、一歩一歩着実に行動していこうではありませんか。



あきたの豊かな自然環境の存続

あきたには四季折々様々な表情を見せる厳しくも豊かな自然があります。このすぐれた環境の下、さわやかな空気や清らかな水、豊かな緑に親しみ、恵みを活かしながら生活することで、個性的で豊かな文化や、他を慮る優しく思いやりのある人間性を育んできました。その恩恵を享受しながら日々の生活を送る私たちは、この恵まれた自然の価値を改めて認識し、感謝するとともに、将来の世代に確実に引き継いでいきます。

自立した子供たちの元気が溢れるまちにするために

あきたの子供たちは全国トップクラスの学力や体力をもっています。そして、社会や生活様式の変化が速く、多様化した現代において、子供たちは、高い能力を活かし未来を切り開き生き抜いていく力を身に付け、社会に貢献できる人財とならなくてはなりません。また、それを見守り育む大人たちが子供たちの周辺環境を整えることで、生きる力に満ち溢れた子供たちが暮らす地域を目指します。

「あきたらしさ」を検討する

秋田青年会議所の活動範囲は秋田市、男鹿市、潟上市、八郎潟町、五城目町、井川町、大潟村と広範囲な地域に亘り、過去の合併前を振り返れば、より多くの地域に分けることができます。これらの地域はそれぞれの特色を持ちつつも類似した点も多くもっており、それは地域固有の「あきたらしさ」というべきものです。似ていつつも異なる地域の魅力を引き合わせ、相互の交流の活性化と相乗効果により、地域の発展と住まう人たちの地域愛の醸成につなげます。

あきたの魅力を多くの方に

市民社会資本の構築を目指して2011年度から始まった秋田醸しまつりは、8年の歳月をかけて、市民社会資本の増強と秋田県の優れた発酵醸造文化というあきたの魅力の発信と発展に貢献してきました。本年も秋田醸しまつりを実施することによる、より広範囲な市民社会資本のネットワークへの発展と、より地域性の高いあきたの魅力を発信することで、地域力の向上を目指します。

安心して暮らすための仕組みを検討する

人口減少、少子高齢化が進むあきたで、これを抑制するためには、高齢者や女性の就業促進、若者の地元定着、育児や介護との両立など、多様な働き方、暮らし方のニーズへの対応と、なにより人々が働く場の安定という両輪が必要となります。企業が多様なニーズに応え、従来通りの労働環境を見直し、改善すると同時に、労働生産性の向上方法の検討に取り組み、雇用が安定することで、人口減少問題や、少子高齢化問題の対策促進につなげ、誰もが安心して暮らせるあきたを目指します。

結びに

「人間には進歩か退歩かのいずれかがあって、その中間はない。現状維持と思うのは、実は退歩している証拠だ。」とは、教育者であり哲学者である森信三氏の言葉です。67年という長い歴史の中で多くの先輩諸氏がこのあきたを「明るい豊かな社会」にするために邁進し、様々な事業を展開し、脈々とその熱い想いを紡いできた秋田青年会議所の運動はまさにこの言葉通りであります。我々はその想いを受け継ぎ、止まることなく現状に甘んじることなく、あきたのために進歩を続けていかないとなりません。周囲を取り巻く環境の変化が激しい現在、世の中には不変のものなんてないのではないかと錯覚することがありますが、世の中には変わらないもの、変えてはいけないものもあり、奉仕・修練・友情の三信条もその一つだと思います。変わらない信条のもと、自身の人間力を鍛え、過去と現在から学び、未来を切り開き明るい豊かな社会の実現を目指します。



◆初詣

専務理事／松本 剛

新年1月3日（木）秋田市新屋の日吉神社にて林理事長を始めとする理事会構成メンバーで初詣を行ってまいりました。

2019年度「止まらぬ運動 変わらぬ想い 道は目の前にある～未来へつなぐ架け橋となれ～」をスローガンに掲げ、行う活動・運動の成功と安全、そして公益社団法人秋田青年会議所と地域のますますの発展を祈願していただきました。新たなスタートを切り、先輩諸氏がつないでいただいた運動と想いをもって明るい未来へつなぐべく1年となるよう、メンバー一丸となり運動してまいります。

本年もどうぞよろしくお願い致します。



◆2019年度1月臨時総会を終えて

総務広報委員会 委員／山賀 貴美

1月16日（火）秋田ビューホテルにおいて2019年度1月臨時総会が開催されました。本総会では2019年度予算について満場一致で承認をいただきました。

また、総会に先立ち2018年度JC内外褒賞授与式も行われました。JC外褒賞は秋田青年会議所のまちづくり運動に賛同され、秋田醸しまつり実行委員会副実行委員長としてご尽力いただきました田沼智史様に授与させていただきました。そして、JC内褒賞には2018年度100%出席賞として8年連続の丸野内真理子先輩を始めとする総勢16名が受賞となりました。そして2018年度理事長筒井崇之君には林理事長より感謝状が授与されました。

2019年度林理事長率いる秋田青年会議所が新たにスタートした1日となりました。本年度も明るい豊かなあきた実現に向けて邁進してまいります。何卒よろしく願いいたします。



◆新春を祝う会を終えて

事務局 次長／藤原 怜

1月16日(水)、秋田ビューホテルにて2019年度新春を祝う会が行われました。会の開催にあたり、2019年度上期新入会員へのバッジ授与が林理事長より行われ、新しく仲間になる皆様を、現役会員一同盛大な拍手とともに迎え入れました。

新春を祝う会では、2019年度体制の始まりということもあり、メンバー全員で親睦を深め、これからの1年をより素晴らしいものとなるように多くを語り合うことができました。

恒例として行っている決意表明では、各委員会の本年度のJC活動・運動が期待できるものとなりました。委員会同士はもちろんメンバー全員で、本年度のJC活動・運動に向け心を一つにできた素晴らしい1日となりました。

新春を祝う会開催にあたり、皆様のご協力に感謝し、より良い1年にしていきたいと思えます。本年度も宜しくお願い申し上げます。



◆2019年度京都会議を終えて

会員拡大・資質向上委員会 委員／飯塚 努



2019年1月18日(金)～20日(日)に、京都にて公益社団法人日本青年会議所2019年度京都会議が開催されました。

秋田青年会議所からは13名が参加し、全国の同志たちと一緒に鎌田会頭の所信を聴くことができました。会場にいた多くのメンバーとともに鎌田会頭の素晴らしい所信を聴くことができ、感動をすると同時に、今年一年間あきたをより良い社会にするために私たち青年が団結し、行動を起こしていくことを誓いました。

また、東京青年会議所千代田区委員会様と常陸太田青年会議所様との3LOM合同懇談会では、様々な情報交換をさせていただいた中で、多くの気づきを得ることができました。合同懇談会を通じ友好をさらに深めることもでき、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

最後に、今回は涉外担当とし、至らぬ点が多々あったとは思いますが、ご参加いただいたメンバーの皆様にご協力していただき、大きな問題もなく無事に全日程を終えることができましたことに、心より感謝申し上げます。ご参加いただきましたメンバーの皆様ありがとうございました。